

平成 27 年度 記者懇談会（第 8 回）の記録

日 時 平成 27 年 11 月 30 日（月）午後 3 時 30 分

場 所 水道庁舎 4 階 会議室

記者数 7 人

同席者 阿部副市長、天野副市長、総務部長、農政部長

次 第 1 岩見沢市アンテナショップにおける平成 27 年度の実施結果について
2 その他について

1 岩見沢市アンテナショップにおける平成 27 年度の実施結果について

説明内容

（市長）

よろしくお願いします。それでは札幌圏、白石区の岩見沢市アンテナショップの本年度の実施結果についてご説明いたします。

今年の開設期間でございますが、5 月にこの定例記者懇談会でご説明したとおり、6 月 26 日から 11 月 1 日までの 129 日間、前年度と比べますと 32 日間の減で営業を行ったところでございます。

売上につきましては、購入者数は 11,963 人ということで前年に比ばまして 1,228 人の増、売上金額は、平成 26 年度から 112 万円増の 10,260,360 円となりました。

昨年に比べての今年の取り組みの拡充内容でございますが、オープニングイベントの充実ということで 3 日間の営業。それからチカホでの回数増を 1 回から 2 回、それから南空知圏ふるさとフェアの常設ということで昨年は 33 日間ございましたけれども、今年は 129 日間、さらにはモニターツアーの回数増ということで、2 回から 3 回、さらには感謝フェアの充実ということで、昨年度は最終日のみの開催でございましたが、最終土日の 2 日間で開催したところでございます。

イベント内容や月日につきまして、資料のとおりでございます。

11 月 1 日で本年度の営業を終えたことから、現在、これまでの 3 か年の検証報告書を担当部の方で作成しております。

来年度以降の取り組みにつきましては、この検証報告書をもとに農協、生産者、白石区役所、アンテナショップ運営部会など関係者と協議していく予定となっております。

以上です。

質疑応答

（読売新聞）

昨年と比べてうまくいった点はどの辺にあったのか教えてください。

（市長）

営業日数は縮まりましたけれども、これまで過去 2 年間の実績を踏まえて認知度が上がったという実績が挙げられます。それと、興味関心を持っていただくためのイベントにも取り組みましたので、その成果も出たのではないかというふうに思っています。当初 1,000 万円の売上げを目標としていましたけれども、若干でありましたが、

1,000万円を超える売上げを達成できたという状況でございます。モニターツアーもトウモロコシの収穫ツアーとかをやっていましたけれども、百餅まつりのツアーも行いまして約40名の参加をいただいたということもございました。

(読売新聞)

今後なのですけれども、先ほど生産者など関係者と協議していくというお話でしたが、継続して来年も実施するということも考えられるのですか。

(市長)

そのことも含めて検討することになります。今年は白石区役所さんにもいろいろご支援いただきましたけれども、北都の商店街の方にもいろいろご支援いただいたところですよ。

(プレス空知)

協議して検討していくということですが、いつ頃までに結果はでるのでしょうか。

(市長)

来年の予算に関係してくる部分なので、年明けまでずれ込むかなと思っております。

(読売新聞)

特に人気のあった商品はありますか。

(市長)

今年の売上げの品目別を見ましたら、切り花ですね。これは去年と上位3つは変わっていません。平成25年度の売上げの上位はお米、切り花、スイートコーンだったので、平成26年度に切り花、お米、スイートコーンで今年も切り花、お米、スイートコーンなので、切り花の売上げが伸びたという状況でございます。

2 その他について（北海道大学との連携による冊子発行の紹介）

(市長)

この冊子は、北海道大学と連携してやっておりますCOI事業の冊子になります。プロジェクト自体が「プレママから子育てにはじまり高齢者まで、おいしい食と楽しい運動で笑顔あふれる社会の形成」というのがビジョンでございまして、参画する大学や関係企業との連携のもとで作りました。おいしい食事、楽しい運動、就労などの社会参加を促すための普及啓発用の冊子ということになります。内容でございませけれども、表紙をめくっていただいて、最初に「Talk, Talk, Talk」というのがありますけれども、妊娠から出産までに掛かる費用というのがこのテーマです。先輩ママがFKさん、Hさん、MZさん、それからプレママNさん、MNさん、FJさん以下5名の方がいますけれども、全て岩見沢の方です。実際に岩見沢の方のトークをまとめた冊子になっております。私共の保健センターの職員も出ておりますけれども、全て岩見沢の取り組みと岩見沢の方々の出演によりまして記事としてまとめた「Live」という冊子になっています。これは年間6回の発行でして、奇数月ということで、次回は1月に第2号を発刊する予定になろうかと思っております。以上です。

質疑応答

(プレス空知)

2回目以降はテーマが重複しないように、切れ目のないかたちでのテーマ設定にしていくのでしょうか。

(市長)

これは北海道大学の方が編集なさっているのですが、C O I 事業の中身でその都度テーマを設定して編集なさっていただけるとは思っておりますが、市としても連携させていただき、お互い協議をしてテーマの設定などができればと思っております。

(プレス空知)

この冊子は何部発行してどこで配布するのでしょうか。

(市長)

1,000部です。初回は750部とお聞きしていますが、2回目以降は1,000部発行です。これは保健センターですとか、ネットワークセンターでも配布予定としておりますけれども広く市民の方に見ていただくような配布を考えるというふうになります。

(プレス空知)

参考までに、これから奇数月に発行ですけれども、これからどれくらい続けて発行していくのでしょうか。

(市長)

C O I 事業の期間に合わせての発行になろうかと思えます。

2 その他について (記者からの質問)

質疑応答

(北海道新聞)

市長は明日、夕張や栗山、由仁の首長と連携してJ R北海道へ現状維持の要請をされると思いますが、あらためてねらいと、他のまちと連携して取り組む意義を教えてください。

(市長)

岩見沢にとりまして室蘭本線という区間になりますけれども、由仁それから栗山、岩見沢で、具体的に減便を考えているのが、苫小牧方面から岩見沢を終着とする日中の1便。空知ということで由仁からということになりますけれども、由仁からは石勝線の関係もありますので、夕張市さんも入っております。基本的には安全対策をしっかりとした上できちっとした丁寧な説明といいますか、住民理解を求めますよということと、安易に減便ということではなくて、仮にも減便する際にはそれに代わる交通手段ですとか、J Rとしての責任を果たしてもらいたいというのが趣旨になろうかなというふうに思っています。

(読売新聞)

マイナンバーですが、郵送で戻ってきている件数など現在の状況を教えてください。

(市長)

27日現在の報告なのですけれども、送付の通数 42,077 で返戻として戻ってきた数 2,786 で返戻理由は宛所なしが 1,000、保管期間経過が 1,764、受け取り拒否が 22 ですけれども、その合計が 2,786。送付した数の内、返戻された数である返戻率でいくと 6.62%、ただし返戻された数の内、交付あるいは再度送付した数というのが 477 ありますので未交付率は 5.49%、現在そのような状況になっています。

(読売新聞)

未交付分の今後の対応はどうなるのですか。

(市長)

未交付分というのは、こちらに戻ってきた分を一定期間市のほうで保管することになります。期間については今後検討していくことになります。本人からの申請があれば保管している分であればそのまま交付ということになります。期間を過ぎてからの交付申請があった場合については、再交付という手続きを取らなければなりません。制度的にはそのような対処をすることになります。

(北海道新聞)

期間は定められているのではなかったのですか。

(市長)

基本的には3か月程度になります。自治体によっては、1年間保管しますと方針を決めているところもあります。何が違うのかというと、3か月经つと通知をして物理的に廃棄をしてしまうということになります。

(総務部長)

再交付になると1回目は国で負担しますが、2回目は1通500円の手数料が掛かることになります。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)